

令和 8 年度 県立竜ヶ崎第一高等学校・附属中学校自己評価表

目指す学校像	10 年先を透徹した生徒主体の探究型学習を通じ STUDENT AGENCY を育む		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	【高潔】 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】 まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる 【剛健】 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける 【協和】 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	【生徒】 21 世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る 【学校・教職員】 時代にあった合理的で生産的な学校運営を行う 【地域社会】 地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○高等学校全日制課程 本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづき、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材。その上で、社会や自然に興味関心を持ち、それを行動や表現に移してきた人材 ○附属中学校 本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづき、中学校において学びを深めるために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材。その上で、社会や自然に興味関心を持ち、それを行動や表現に移すことのできる人材	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
中高一貫特色校としてのブランドが浸透し、附属中出願倍率は継続して 4 倍を超えた。あらゆる教育活動を通じた探究的な学びの推進について、カリキュラムマネジメントを重ねながら漸進の途にある。生成 AI をはじめとしたデジタル先端領域については引き続き国内有数の実践を誇り、i パス合格者も二桁に到達した。特別棟には長寿命化工事を契機に、探究を支える斬新な学習施設（i ハブ等）を設置した。探究・デジタル領域での卓越性をさらに追求しつつ、発信・普及を促進するとともに、多様な進路への導線を設計していくこと、加えて高校からの入学志願者に対するアピールを強めることが課題である。	【生徒】 21 世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る（ラーニング）	総合知を用いた真正な探究学習を通じ本物の課題解決力を育む（SSH テーマⅠ）	
		ゆるぎない教科指導を通じ基礎学力を固める（SSH テーマⅡ）	
		開かれた学びと異文化との出会いを通じ、自ら行動し創造する力を育てる（SSH テーマⅢ）	
		最先端のデータ・デジタル技術を身に着けた、卓越したイノベーション人材を育てる（SSH 重点枠）	
	【学校・教職員】時代にあった合理的で生産的な学校運営を行う（オペレーション）	カリキュラム・ポリシーにもとづく 6 年間一貫した学びを提供する	
		生徒の AGENCY（自由と責任を扱う力）を育む学校生活を演出する	
		多様な学びを促進する学習環境を提供する	
		国内外の進学ニーズに応えるカレッジカウンセリングを提供する	
	【地域】地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる（マーケティング）	生産的で信頼される学校運営を行う	
		アドミッション・ポリシーにもとづく戦略的な生徒募集を行う 竜一の価値を効果的に伝え優良な関係者との縁を築く	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	担当部署	評価	次年度(学期)への主な課題
【生徒】21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る(ラーニング)	総合知を用いた真正な探究学習を通じ本物の課題解決力を育む(SSHテーマⅠ)	「総合知」を理解し身に着けるためのカリキュラムを開発する	探究		
		社会調査を探究の標準カリキュラムとして導入する	探究		
		課題定義の質を上げる(問いの絞り込み、先行事例の確認、受益者の明確化、検証方法の見通し等)	探究		
		探究経験の差を踏まえた段階別カリキュラムを整備する	探究		
		探究に対する教職員の関心と課題解決の基礎知識・技能を底上げする	探究		
		本物の課題解決を実施する	探究		
		国内外のコンテストを通じ探究・STEAM等の卓越人材を育成する	キャ		
		探究のシラバス・教材をHPで公開する	探究		
		探究においてデータ・デジタル技術を効果的に活用する	探究		
		生成AIを活用し探究の効果・効率を向上する	情メ		
		生成AIの活用ガイドラインを開発する	情メ		
		探究やSTEAM教育に取り組む国内外の学校・関係団体との連携を強化する	探究		
		データ・デジタル技術を活用した先端的な探究プログラムを開発する	探究(デジタル班)		
	ゆるぎない教科指導を通じ基礎学力を固める(SSHテーマⅡ)	質の高い生徒主体の授業を実践する(個人)	学習		
		教員同士で学び合う専門家集団(PLC)となる(チーム)	学習		
		記憶の再生を超え、生徒の思考力・判断力を伸ばす	学習		
		主体的に学びに向かうAGENCYを育てる	学習		
		生成AIを用いて情報提示を超えた(個に応じた/協働的な)学びを行う	学習		
		生成AIを効果的に活用した授業を開発する	学習		
		まとまった量の文章を読み書きする能力を育てる	担当者		
		探究活動の基盤となる情報活用能力を高める	担当者		
		ニーズに合った質の高い課外・特別講座を提供する	学習		
		6年一貫した指導方針(Rプログラム)を開発する	学習(アナリスト)		
	開かれた学びと異文化との出会いを通じ、自ら行動し創造する力を育てる(SSHテーマⅢ)	探究・教科横断で6年間のキャリア教育カリキュラムを設計する	キャ		
		社会に開かれたキャリア教育を実施する	キャ		
		4(5)技能にわたる英語の基礎学力を定着させる	英語科		
		異文化間での協創等を通じたイノベーション創発活動を開発する	キャ		
		生徒の主体性や創造力を発揮する機会を設ける(SSH行事や特別活動)	特活		
		社会に接続した校外活動を実施する	キャ		
		地域の多文化資源を教育資源に替える	キャ		

別紙様式 2 (高)

		留学や海外交流プログラムへの参加を促進する	キャ			
	最先端のデータ・デジタル技術を身に着けた、卓越したイノベーション人材を育てる (SSH 重点枠)	高度情報教育を通じ情報分野の卓越人材を育成する	情報科			
		先端技術を学ぶ課外講座を開催する	情報科			
		数値解析ツールや CAE ツールを活用したカリキュラムを開発する	数学科, 理科			
【学校・教職員】時代にあった合理的で生産的な学校運営を行う (オペレーション)	カリキュラム・ポリシーにもとづく 6 年間一貫した学びを提供する	中高一貫の教育課程を継続的に改善する	教務			
		月次での振り返りと報告を徹底する (カリマネ)	教務			
		シラバスにもとづく計画的な授業実践を行う	教務			
	生徒の AGENCY (自由と責任を扱う力) を育む学校生活を演出する	HR を安心・安全のホームグラウンドにする	担任, 副担任			
		校内のルールをスリムで時代に合ったものとする	生支			
		生徒会の自治機能を再興する	特活			
		学校行事やホームルーム活動 (含委員会) を生徒主体の活動とする	特活			
		生徒主体の適正な部活動運営を行う	特活			
	多様な学びを促進する学習環境を提供する	いつでもどこでも快適なインターネット環境を維持する	情メ			
		端末・ICT 備品のリブレース計画を策定する	情メ・事務			
		i ハブ～c ラボのサービスを完成させる	情メ			
		生徒の読書習慣を強化する (次世代の図書館機能)	情メ			
	国内外の進学ニーズに応えるカレッジカウンセリングを提供する	難関大学への進学を支援する	キャ			
		生徒が集うキャリア支援空間を構築する	キャ			
		エビデンスにもとづく出口指導を提供する	キャ			
		探究型の学びの出口として総合型入試を積極的に活用する	キャ			
		海外進学を支援するプログラムを樹立する	キャ			
	生産的で信頼される学校運営を行う	組織の生産性を高める	全教職員			
		財務状況を正しくタイムリーに報告する	事務職員			
		校内での生徒事故・災害を防止する	生支			
		インシデント情報を速やかに報告する	全教職員			
		法令に則ったいじめ防止対策を講ずる	全教職員			
		教職員による不祥事を防止する (含: 情報セキュリティ・個人情報保護)	全教職員			
		正確で公正な事務処理を行う	事務職員			
		ミスのない入学者選抜業務を行う	学検委			
		「ほうれんそう」と起案を徹底する	主任・部長			
		生徒支援力を向上する (発達障害、ネット問題等)	生支			
【地域】地域と連携し共に	アドミッション・ポリシーにもとづく戦略的な生徒募集を	ターゲット層に向け学校の魅力を効果的に伝える	マケ			

別紙様式 2 (高)

成長する、開かれた学校となる（マーケティング）	行う				
	竜一の価値を効果的に伝え優良な関係者との縁を築く	タイムリーに学校のニュースを配信する	マケ		
		適切な媒体で竜一の考えや価値を発信しつながりを醸成する	マケ		
		OB/PTA との良好な関係を維持し学校への支援をいただく	マケ		
		学校活動を地域・全国に公開／配信する	マケ		

※ 評価基準：A（達成された）、B（ほぼ達成された）、C（達成されなかった）

< 教科・学年の詳細 >

国語	模試過年度比	過年度比較で上回る偏差値となるよう、指導法を確立する。			
	授業評価 3.65 以上	前期アンケート結果に基づき、後期の授業改善へと結びつける。			
	附属中 現代文では漢字力と語彙力を、古典では文法・句法を中心に、基礎学力を確立させ、国語に対する興味関心を育てる。	年間を通して小テストによる振り返りを実施し、語彙力・国語に対する基礎学力を身につけさせる。中1で漢字検定合格70%以上、中2で準2級50%以上取得できるよう学習に取り組む。			
		現代文の授業において、論理的に文章を読解する技術を身につけ、文章に積極的に取り組む姿勢を育てる。教科書以外の文章を応用として読ませる。			
		古典に対する興味関心をもたせつつ、基本的な文法事項や句法についても理解させる。教科書以外の古典文学を応用として読ませる。			
	1年 評論、実用的文章、小説、古文、漢文を読むための知識及び思考力の基礎を養う。	読解や思考の前提となる語彙力を高める。また古典では正確に文法を理解する。			
		ICTなども活用して、論理的に文章を読解し思考・表現する力を育てる。			
		文学的文章の読解や言語活動を通して、思考の幅を広げる。			
	2年 現代文・古文・漢文のそれぞれの応用力を育成、進展させる。	計画的に学習させ、基礎から応用へのステップアップを図る。			
		現代語・古語の語彙力を確かなものにする。また古典においては、文法の理解を土台とした正確な読解を目指す。			
		授業や考査の中で大学入試を意識した問題の扱いを徐々に増やし、受験に対応できる学力を身につけさせる。			
	3年 現代文、古文、漢文の受験に対応した学力を完成させる。	受験を意識した授業の実践を心がける。			
		小論文や評論に対応した、幅広い知識を身につけさせる。			
		知識問題についての段階的指導を完成させ、入試に対応する実践力を高める。			

別紙様式 2 (高)

地理歴史 ・公民・社会	模試過年度比 (別途定義)	設定された数値を上回るよう、指導法を研究・共有する。			
	授業評価 3.65 以上	質の高い問いかけや探究的な学習の手法を追求する一方で、学習に課題を持つ生徒に応じた対策を行うなど、生徒の現状に合わせた研鑽と実践を進める。			
	附属中 基礎的な学習内容を習得しつつ主体的に学ぶ姿勢を身につける	授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。			
		生徒それぞれの個性や興味関心に合わせた動機づけを意識しながら、主体的に学ぶ意識を育成する授業展開を行う。			
	1 年 重要概念の理解および概念を利用して思考・判断する能力を育成する。	積極的な ICT や AI の利用および生徒主体の学びの手法を研究し、探究的学習の実践を通じた重要概念の理解と思考・判断の能力育成をはかる。			
		新課程科目 (歴史総合・公共・地理総合) における実践の成果、および評価の手法の共有・深化を進める。			
	2 年 1 年で獲得した能力をさらにのばしつつ、受験に対応できる学力を育成する。	ICT や AI の利用を積極的に進めつつ、主体的・探究的な学びを取り入れた授業と、質の高い知識伝達型の授業のベストミックスをはかることによって、論理的思考に裏づけられた内容の理解をめざす。			
		単純な用語の暗記ではなく、概念を利用した論理的理解を基礎として、受験に対応できる学力の確実な習得と定着をはかる。			
	3 年 受験に対応できる学力を確立する。	過去の共通テストやセンター試験ならびに大学入試問題等を十分に研究し、その成果を教員間で共有することで、チームとして学習指導の改善をはかる。			
		論述問題への対策が必要な生徒に対し、個別指導を中心に高度な問題に対応できる能力を獲得できるよう支援する。			
数学	模試過年度比 (別途定義)	過年度比較で上回る偏差値となるよう、指導法を確立する。			
	授業評価 3.65 以上	生徒個人へ寄り添いつつ、全体を導くことのできる存在として、結果を伴った成功体験を積み重ねつつ信頼関係を築く。			
	附属中 様々な数学的な見方や考え方を学び、数学に対する関心や意欲を高め、学習習慣および中学校数学の基礎を固めると共に、6 年間を見通した体系的な学び、発展的な学びを実践する。	日々の授業において、内容を精選し基礎の確実な理解と定着を図り、それを基に思考力・判断力・表現力の伸長を図る。			
		授業と連携した宿題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。			
		関連する高校の学習内容や難易度の高い題材に触れることで、深く思考する機会を設けると共に、中高一環教育の環境を活かした体系的な学びを行う。			
	1 年 様々な数学的な見方考え方を学び、数学に対する関心・意	日々の授業においては、内容を精選し基礎の確実な理解と定着や習熟に応じた発展的な内容をグループ活動を通して、探究的に取り組ませる。			

別紙様式 2 (高)

	欲を高め、学習習慣および高等学校数学の基礎を固める。	授業と連携した課題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。			
		日々の授業においては、内容を精選し基礎の確実な理解と定着や習熟に応じた発展的な内容をグループ活動を通して、探究的に取り組ませる。			
	2年 授業内容の確実な定着を目指し、きめ細かい支援、科目の重要性についての意識の涵養などの多面的な指導を行う。	授業展開の工夫やスパイラル学習を通じて、基礎の確実な理解を図ると共に、定着や習熟に応じた発展的な内容にも探究的に取り組むなど、全ての生徒が習熟に応じた学びを得るよう展開する。			
		年間を通じて入試問題研究や定期考査の作問を通して精選した課題を与え、生徒の取り組みを徹底させる。			
		授業進度だけでなく、弱点単元の分析も通じて定期的考査や小テストの範囲を設定することで、実践的学力の定着を図る。			
	3年 生徒の進路実現に向け、大学入試に必要な学力を身に付ける。	早い段階から問題演習中心の授業を実施し、実践的学力を育成する			
		生徒達の各種テスト結果の客観的分析を通じて、効果的に学習が進められるよう支援する。			
		進路実現に向かう中で、一人一人が自立した人物となれるような支援・指導を行う。			
理科	模試過年度比 (別途定義)	過年度比較で上回る偏差値となるよう、指導法を確立する。			
	授業評価 3.65 以上	生徒を対象とした学習の理解度・到達度等に関してアンケートを用いて確認し、今の生徒にとって最もふさわしい授業展開を常に考え、工夫を続ける。			
	授業内容を常に深化させながらも、理科に求められるゆるぎない指導を通じて、生徒が自身の希望進路を実現できる基礎学力の向上を図る。	シラバスに沿った授業展開を心がけ、質の高い生徒主体の授業を実践するとともに、担当者間で情報交換を積極的に行い、教員同士で学び合う集団となる。			
		生徒にとって適切な内容・分量の課題を提示するとともに、小テストによる振り返りを行い、生徒の学習習慣の確立とスモールステップでの学習管理を図る。			
		必要に応じ、生徒との個別面談や指導を行い、難関大学受験に対応したより高い思考力を養成するための機会を生徒に提供する。			
	自然や自然現象に対する興味・関心を高め、知識の活用能力と思考力を高める授業展開に努める。	観察・実験をバランスよく実施し、実物に触れることにより興味・関心を喚起し、概念理解の深化を図る。			
		自然や自然現象と科学との関連を取り上げることにより、科学への興味・関心を高めて知識の活用を促すとともに、記憶の再生を超えて生徒の思考力・判断力を育成する。			
		I C Tはもちろんのこと、数値解析ツールや CAE ツールを活用した質の高い生			

別紙様式 2 (高)

		徒主体の授業を実践し、授業への興味・関心を高め、より深い思考力を育てる。			
保健体育	授業評価の平均値が 3.65 以上	ICT・生成 AI を積極的に用いながら課題解決の意欲を高めていくことで種目の持つ特性や魅力に触れ、運動の楽しさや喜びを促す。			
	身体運動を通じて運動に親しむ態度を育て、豊かなスポーツライフを形成できる資質・能力を育成する。	自己に応じた身体能力・体力を高めるための運動を合理的な方法で身につけさせる。			
		各種の運動の合理的な実践を通して自己の課題を見つけ、解決できる能力を身につけさせる。			
		各種の運動を通しての相互理解・尊重の態度を身につけさせ、コミュニケーション能力を育てる。			
		熱中症や怪我を防止するため、安全管理に留意して授業を行う。			
	生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育む。	健康に対する知識や実践力を養い、課題解決能力を身につけさせ、明るく豊かで活力ある生活を育む態度を育てる。			
		社会生活及び各個人の生活における健康・安全管理について、課題の解決に役立つ基本的な知識を理解する。			
		ICT・生成 AI を積極的に活用することで、授業への興味・関心を高め、より深い理解を促す。			
芸術	授業評価の平均値が 3.65 以上	提出物や実技発表を通して技能の習熟度を図り、成功体験を積み重ねることで授業への積極的な取り組みを促す。			
	芸術を愛好する心情を育てるとともに、芸術の諸能力を伸ばし芸術文化についての理解を深める。	表現及び鑑賞の活動において、ICT を効果的に活用する			
		多様な芸術表現を経験する中で、他者と協働しながら表現を生み出したり、表現したりするための技能を身に付ける。			
		日本や諸外国の芸術作品を鑑賞し、理解を深める。			
英語	目標平均点偏差値の達成	4(5) 技能における基礎学力の定着、特別講座・平常課外の実施、課題の工夫、情報共有			
	基礎的な知識・技能の確実な定着を図り、英語による理解と発信の力を育成するとともに、進路実現に資する学力の向上と実践的な英語運用能力の育成を通して、社会に監視委を持ち自ら考える姿勢を養う。	先進校視察、アウトプットを重視しつつ進路実現につながる授業デザイン、オーセンティックな素材や ALT の活用、教科会の実施、			

別紙様式 2 (高)

附属中 すべての生徒への基礎の確実な定着を図り、英語による理解と発信の土台を固めるとともに、身近な話題について英語で表現する経験を通して、学習意欲と自ら考えようとする姿勢を育てる	毎週の単語小テストで振り返りつつ定着させることで、基本的な語彙を身につけさせる。			
	基本的文法事項を習得させ、英文を読む力と書く力を培う。			
	授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養う。			
	A L T とのチームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。			
1 年 読む・書く・聞く・話すための基礎的な知識・技能を習得し、英語による理解と発信の経験を通して定着を図るとともに、自分の考えを英語で表現する力を養い、進路実現と実用英語力の基礎を固める。	BYOD 端末を活用し、ALT と協力しながら、効果的なライティング活動を取り入れる。			
	ICT を活用し、国内外の情報を授業に取り入れる。			
	教員間の連携を強化し、指導の明確化や生徒の適切な評価につなげる。			
	ALT とのチームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。			
	外部英語検定受験を奨励し、CEFR A2 レベル (英検準 2 級以上) の力を身に付ける。			
	ディベート活動や AI を活用した学習を通して、思考力と表現力を身につける。			
2 年 基礎的な知識・技能を英語による理解と発信の積み重ねによって、定着・発展させ、まとまった内容を読み取り自分の考えを整理して発信する力を養い、進路実現に資する実践的な英語力へとつなげる。	毎週の小テストで振り返りつつ定着させることで、大学入試に必要な語彙力や読解力を身につける。			
	基本文法事項を習熟させ、英文を読み要約する力と、論理的に書く力を高める。			
	授業や家庭学習でのリスニング学習を定着させ、英語を聞く力を養う。			
	ALT とのチームティーチングを通して、意欲的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成し、自然な英語表現を使って自己の考えを述べる力を身につける。			
	外部英語検定受験を奨励し、CEFR B1 レベル (英検 2 級以上) の力を身につける。			
	エッセイライティング活動を実施し、英語の運用能力と論理的思考力を身につける。			
3 年 英語による理解と発信の力を総合的に高め、さまざまな内容について自分の考えを論理的に表現する力を養うとともに	平常の授業において、受験に対応した総合的な学力を高めさせるとともに、新しい入試形式を研究し、対応できる英語力の育成を図る。			
	各テストを通して、受験に向けた計画的な学習を支援していく。			
	生徒の状況に応じた課外授業及び個別指導を実施する。			

別紙様式 2 (高)

	に、進路実現に必要な学力の完成と、その後の学びや社会で活用できる実践的な英語力を身に着ける。	授業・指導法の研究に努め、平常授業の充実を図る。			
家庭	授業評価平均値が 3.65 以上	達成感の獲得を目指し、主体的な学びを促すための教材の精選と指導の充実に努める。			
		個に応じた指導の徹底と適時適切なフィードバックの実践を通じ、学習効果の着実な向上を図る。			
	基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	家庭や社会における生活課題を科学的・客観的な視点で捉え、自立した生活者として主体的に判断し行動するための資質の習得を図る。			
		授業における指導内容の充実に努め、実体験を重視した指導の工夫を図る。			
	主体的に課題を見出し解決する力と態度の育成を通し、探究力の向上を図る。	日常生活の中の問題点や改善点を認識させ、生活の質の向上に結び付くよう工夫するとともに、振り返りを通じた学びを重視し、自己認識の育成を図る。			
		ホームプロジェクトの実践を通し、グループディスカッションやプレゼンテーションを用いた自己表現力の向上と自己理解の深化を図る。			
情報・技術	学びの場を工夫するとともに、ICT の効果的な活用を推進し、ICT スキルの向上を図る。	デジタル教材やオンラインリソースを活用し、演習の充実を図り効果的な学習効果の向上を図る。			
		ICT を活用した探究的な学びの場を創出し、個々の ICT スキルの着実な向上を図る。			
	卒業後の自立した生活や社会参加に必要な実践的知識・技能を習得させ、自ら考え判断し、主体的に行動する力を育成する。	成年年齢引下げを踏まえた消費者・金融教育の推進を通じ、金融商品やサービスに関する基礎的知識の定着と活用能力の向上を図る。			
		家計運営および資産形成・投資に係る実践的演習を通じ、自律的な意思決定に基づき主体的に行動できる資質・能力の育成を図る。			
		契約の社会的責任や家計運営の基礎、消費者被害防止に関する学びを体系的に展開し、実社会の経済事象に対して主体的に意思決定し行動できる、実践的な経済的リテラシーの育成を図る。			
情報・技術	授業評価の平均値が 3.65 以上	活動的な学びの機会を増やし、実感とともに理解を深められるように指導を工夫する。			
	生徒の実践的な情報活用能力を育て、学習や探究活動に情報技術を活用できるようにする。	情報技術を活用した課題解決型の授業を実施し、生徒が自ら手を動かして学べるようにする。			
		各教科・他教科との連携を図り、年間を通して横断的な活用経験を積ませる。			

別紙様式 2 (高)

		生成 AI の活用について年間を通じて指導し、生徒自身が有効にかつ主体的に使えるようにする。			
	生徒に情報技術について科学的に理解させ、情報技術の適切な利用の態度と理論を身に着けさせる。	テストや教材を工夫し、学習活動が深い理解と論理的思考に結びつくようにする。			
		情報技術の基本的な仕組みや考え方を、段階的かつ具体的な活動（観察・操作・演習）を通して理解できる授業設計を行う。			
		プログラミング演習などを通じて、情報技術の仕組みを体感的に理解させ、概念と操作を結びつける。			
	生徒に情報技術が社会で果たす役割について理解させ、主体的に情報社会に参画する態度を育てる。	生徒による授業内容の振り返りと、それに対するフィードバックを毎時間取り入れ、内省を促す。			
		社会課題や最新の ICT 活用事例を扱った教材を用いて、情報技術の社会的影響について考察し、表現する機会を設ける。			
		授業外の活動や学校外での活動を生徒に紹介し、社会との接点を持たせるよう支援する。			
附属中	基本的生活習慣の確立	服装や言葉遣い、時間やルールの遵守を中心に、自律した学校生活を送れるよう、授業や学校行事、休み時間等を通して、教員間や家庭と連携して生徒の社会性が育つよう指導する。			
	学習習慣の確立と学力の向上	面談や ICT を活用し、予習・復習や家庭学習の状況を把握し、個の能力や環境に合わせて適切に指導する。生徒の興味や関心、個性を教育活動で引き出し、コンテスト等何事にも積極的に挑戦しようとする態度を育てる。少人数学習の実施や ICT の活用を通して、個に応じた学習指導を展開する。中高一貫教育校の強みを活かして、学習の先取りや深い学び、異年齢学習、探究的な学習を実践し、生徒の能力の伸長を図る。			
	キャリア教育の充実	探究活動、企業・研究所訪問や外部講師による講演会、模擬授業等を通して、知識や思考力の向上を図るとともに将来の職業について考えさせる。語学研修や ICT を用いた海外の中高生等との交流により視野を広げ、世界に羽ばたく人材の育成を目指す。			
	心身の健康管理	複数担任制を展開し、多感な年齢の生徒のみならず不安を抱える保護者へのサポートの充実を図る。 年間 3 回以上の面談を実施する。また、教員間や保護者、スクールカウンセラーと連携し、生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるよう支援する。			
	働き方改革	公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン（文部科学省）に則り、			

別紙様式 2 (高)

		在校等時間（校外での勤務を含む）について 1 か月の超過勤務 45 時間以内、1 年間の超過勤務 360 時間以内を目指す。そのために原則定時の出退勤と有休・代休の消化を心掛け、中学・高校を通じた業務の共通化、仕事の精選と分散、ICT の活用等で会議や仕事の効率化・生産性を向上させる。			
第 1 学年	生活習慣の確立とコミュニケーションの促進	凡事徹底、報連相の徹底、時間厳守を目標に、安定した生活習慣を確立させる。			
		面談や学校行事、HR を活用して教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションを促進し、学年内の人間関係を活性化する。			
	基礎学力の定着と自立学習の充実	初期指導の充実を図り、授業を中心とした予習復習のサイクルが確立できるよう、授業およびホームルーム・学年集会、通信を通して継続的な指導に取り組む。			
		生徒が授業内容を確実に定着できるよう、各教科で連携して課題や形成テストの量を調整するとともに、ICT 端末を活用した学びを積極的に取り入れて、学習意欲と協働的学習の質の向上を図る。			
		学習習慣記録や予定表を活用して、自ら計画を立て行動する習慣を身につけさせる。			
	探究&キャリア教育の充実	LHR の時間を中心として、進路意識が高められるように、将来の目標や職業観などを育む指導を行うとともに、計画的に 2 年次の文理コース選択に向けて適切な指導を行う。			
		他部署と連携し、生徒の職業観、仕事観をより深める行事を企画・実施する。			
		探究を通して、イノベーション力を向上させるための支援をする。			
		課題解決的なアプローチを文化祭を通して学ばせる。			
	心身の健康管理	生徒一人一人の心身の成長とともに、健康的な学校生活が送れるよう、保健部やスクールカウンセラー、保護者と連携しながら、生徒個々の問題の早期発見に努め、適切な指導を行う。			
	生徒の主体性、創造性を発揮する場を提供する	文化祭、FMT, 先輩と語る会等の行事で、生徒の自主性や創造的な活動を積極的に取り入れる。			
第 2 学年	ゆるぎない教科指導を通じ基礎学力を固める。	ニーズに合った質の高い課外・特別講座を提供する。			
		教員同士で学び合う専門家集団(PLC)となる(チーム)。			
	開かれた学びと異文化との出会いを通じ、自ら行動し創造する	生徒の主体性や創造力を発揮する機会を設ける。			
		修学旅行およびその事前指導を通して、異文化間での協創（対等な関係で協力			

別紙様式 2 (高)

	力を育てる。	し合い、新たな価値や意味を生み出す過程)を図る。			
	国内外の進学ニーズに応えるカレッジカウンセリングを提供する。	難関大学への進学を支援する。			
		エビデンスにもとづく出口指導を提供する。			
	生産的で信頼される学年運営を行う。	法令に則ったいじめ防止対策を講ずる。			
	生徒の AGENCY(自由と責任を扱う力)を育む学校生活を演出する。	HR を安心・安全のホームグラウンドにする。			
第 3 学年	学力の向上	2 年次までの取り組みを継承し、予習・授業・復習のサイクルの重要性を踏まえながら、さらに発展的学習に自主的に取り組む姿勢を養う。			
	学習習慣の確立と基礎学力の定着 基本的な生活習慣の確立	各教科で、年度当初から入試を意識した指導を行い、適切な時期に、適切な課題・指示を与えるように努め、学年教科担当者が相互に連携をとりながら、学習意欲の向上を図る。			
		学力テスト・模擬試験の結果分析、大学入試問題の出題傾向の分析結果を授業に反映させ、授業内容の充実を図るとともに、受験勉強のペース・指針を生徒に示し続ける。			
		最上級生として、後輩の模範となるよう規律ある生活に努め、学校行事や部活動において、それぞれの持ち場で中心的役割を果たせるよう支援する。			
		学習を中心とした毎日の生活習慣を自己管理させるとともに、長期的な目標にむけて自主的に計画を立て行動できるよう支援する。			
	キャリア教育の充実	生徒の学習成績や進路情報を学年で共有し、生徒や保護者に有効に提供できるようにする。			
		LHR、学年集会、講演会等を通して、入試や志望校の研究に努め、目標に向かって邁進する環境・雰囲気醸成する。			
		生徒との面談や保護者との意思疎通を密にし、必要に応じて学年外の職員の協力を得ながら、適切な進路支援ができる態勢をつくる。			
	心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように留意し、生徒の問題の早期発見に努め、生徒支援部や養護教諭、保護者と連携しながら適切な支援を行う。			

※ 評価規準：A（達成された）、B（ほぼ達成された）、C（達成されなかった）